



右の写真は、30年前に作られ今日まで現役で使用されている1艘のチプ。操舵を務めるのは伝承活動の功労者・(故)白沢ナベさんです。今回、新しいチプに乗り、若手に操舵を教えているのは、文化伝承保存会の石辺会長さん(写真左)。千歳のアイヌ文化や技術が次の世代へと受け継がれます。

30年ぶりの丸木舟

■千歳アイヌ協会では、アイヌ文化の伝承活動に使用する《チプ》と呼ばれる丸木舟を本年2艘制作し、10月31日に《チプサンケ》と呼ばれるアイヌ伝統の《舟おろしの儀式》を執り行いました。千歳アイヌ協会が《チプ》の制作と《チプサンケ》を開催するのは30年ぶりのことで、指導者のもと、10代、20代の若手を含む多くの協会員が《チプ》の制作や儀式に関わることができ、《チプ》制作の知識・技術や《チプサンケ》の礼儀作法を次世代へ継承することができました。千歳アイヌ協会では、今後もさまざまな文化伝承の取組を行っていきますので、皆さん方にもぜひ関心をもっていただき、アイヌ民族や文化に関わる施設を訪れ、イベントに参加していただきたいと思ひます。

千歳アイヌ協会
会長 なかむら よしお 中村 吉雄

あ
の
と
き
、
あ
の
場
所

瞬きの点景。

SCENERY OF MOMENT

カメラが光を捉えるほんの一瞬。映り込む人物やものごと。千歳ならではの魅力が、残したくなる風景が、そこにある。

広報ちとせ(第1101号) 令和3年12月10日発行
発行/編集/千歳市企画部 広報広聴課
〒066-8686 千歳市東雲町2丁目(☎240104 FAX(22)8851)
市のホームページアドレス <https://www.city.chitose.jp/>
印刷/千歳印刷株式会社



■ 今月の表紙

もうすぐクリスマス。サンタクロースが煙突から入ってくるという逸話は、モデルになった人物が、煙突から金貨を投げ入れたことが由来だそうです。薪ストーブの炎のゆらぎが心も体も温めてくれます。

■もうすぐクリスマスがやってくる。今年は休日であっても家で過ごすことが多く、旅行などの外出を我慢していたので、どうやら私のところにもサンタが来てくれそうな雰囲気だ。サンタからの久しぶりのクリスマスプレゼント。何をお願いするか考えるだけで思わず笑みがこぼれてしまう。

■師走に入り、年賀状の準備をしようと思いつつ筆が重い。最近ではキーボードやスマホで文章を打つことが多く、手書きの文章を書く機会が少なくなりました。私とは対象的に最近、字を書けるようになった息子は、書くことが楽しいようで、ワクワクしながら手紙を書いていきます。初心忘るべからずですね。